

「延世大学校スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学大学院・総合生存学館2年 谷本明子

今回の留学で目指したのは、「韓国と日本の相互理解」です。

派遣校である延世大学の語学堂は、プログラムが洗練されており、受け入れ体制も整っていたので韓国語初級者にとっても負担なく学ぶことができました。日本で学んでいた部分と被る範囲もありましたが、発音から矯正され、集団授業では獲得することが難しい部分をも補えた貴重な時間でした。日本語では特定の一音としてしか聞き取ることができない発音も、韓国語では複数の語、多いもので6通りにも分類されます。このような言語としての繊細さを体感できたことは、自分には聞き取れないものが他の人には聞こえているという異文化理解に繋がりました。そしてこのスプリングスクールは正規授業に初回から編入する形だったため、各国から来たクラスメートたちとも自然な交友関係を築くことができました。クラスでは韓国語が皆初級のため、最初の3週間では結果的に英語でやり取りすることが大半で、世界と議論していくための語学力の高さを思い知らされましたし、そのほか環境面では、大学構内は隅々まで丁寧に管理されていて不自由なことはなく、宿舎も正規生と同じ建物を使うことができたので、授業以外の時間もルームメイトを始めとした討論や国際交流を深められるなど、考えていた以上に充実した様々な経験を得ることができました。

また留学前と留学中に取り組んでいたこととして、日本についてどう教育されてきたか、また日本についてどう考えているのかについてのインタビューを行いました。プログラムの事前準備で交流する韓国語のチューターその他、現地の語学交換の相手など、留学に際して必要なコネクションを大学が手配してくれていたことは大変ありがたかったです。この期間に留まらない関係性を築き、持続的で誠実な対話をすることができました。また韓国がちょうど三一独立運動から100周年という節目を迎える時の留学とあって、光化門広場を始めとして街中を歩いていると独立の雰囲気や端々に感じられました。滞在期間中には戦争記念館のほか、DMZ（北朝鮮との境界、非武装地帯）、独島体験館、ベトナム戦争派兵時の様子を題材にした総合芸術の舞台を鑑賞するなど韓国が感じている歴史を理解することに注力しました。結果として、二国間の心理的な問題は根が深いことを改めて感じさせられました。私の専門分野が教育学で、他者を理解することにおいて対話の重要性を学んできていたので、彼らと対話して考えを共有すれば理解が進み、問題が解けると渡航前には確信していました。しかし実際に一通り終えて感じたのは、争いの実行者／当事者が不在の中、受け継がれた「恨한」を根本的に解くことは非常に難しいということでした。被支配国はもちろんのこと統治側も、混沌とした異常な世界情勢のもとで起こっていたことなので、その事実のままを理解することは今の時代に合わないのを知りました。日本では戦時中の反省から他国と比較して思想教育が欠けていますが、このことは日本が自体的に成長することにおいては功を奏した部分も多いと考えられる一方で、外交関係や国際社会で渡り合っていくには負の側面も多いのではないかと感じました。

私は卒業後に国際機関への就職を考えていますが、今回の留学を通して、法整備や政治が市民の考え方に与える影響という、自身の研究の新たな視座も手に入れるようになりました。また嬉しい収穫として、英語力が絶対的に足りないという事実を身にしみて感じられたのも大きかったです。3週間という短い留学期間でしたが、何を目的としてどんな姿勢で取り組むかによって得られるものも変わってくるのを感じました。貴重な機会を下さったことに心から感謝を申し上げます。